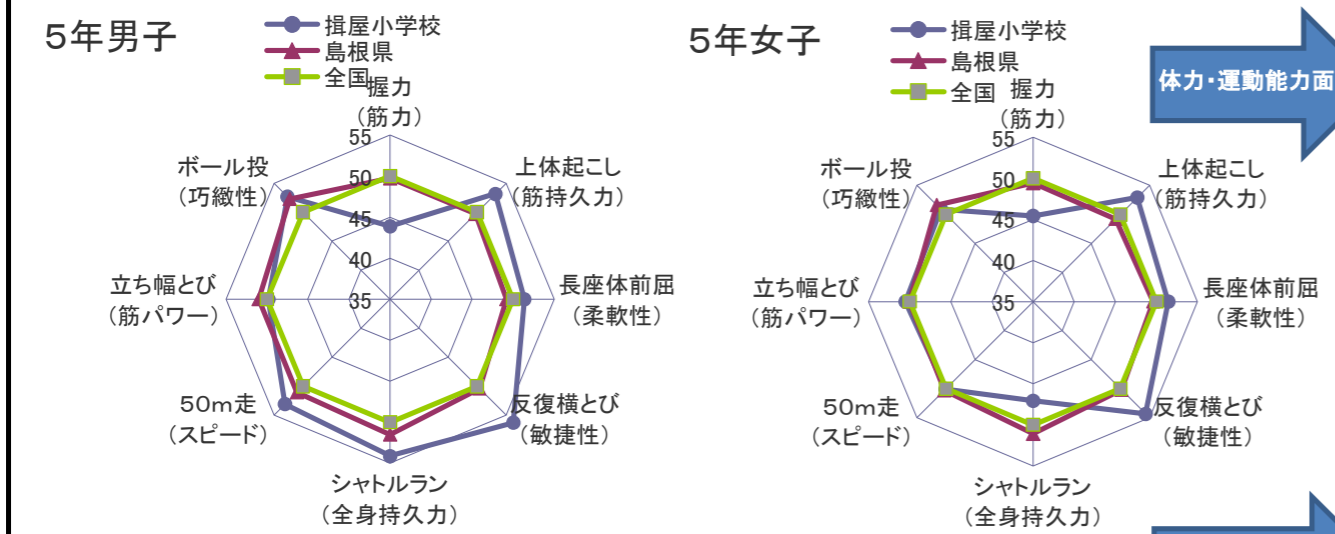
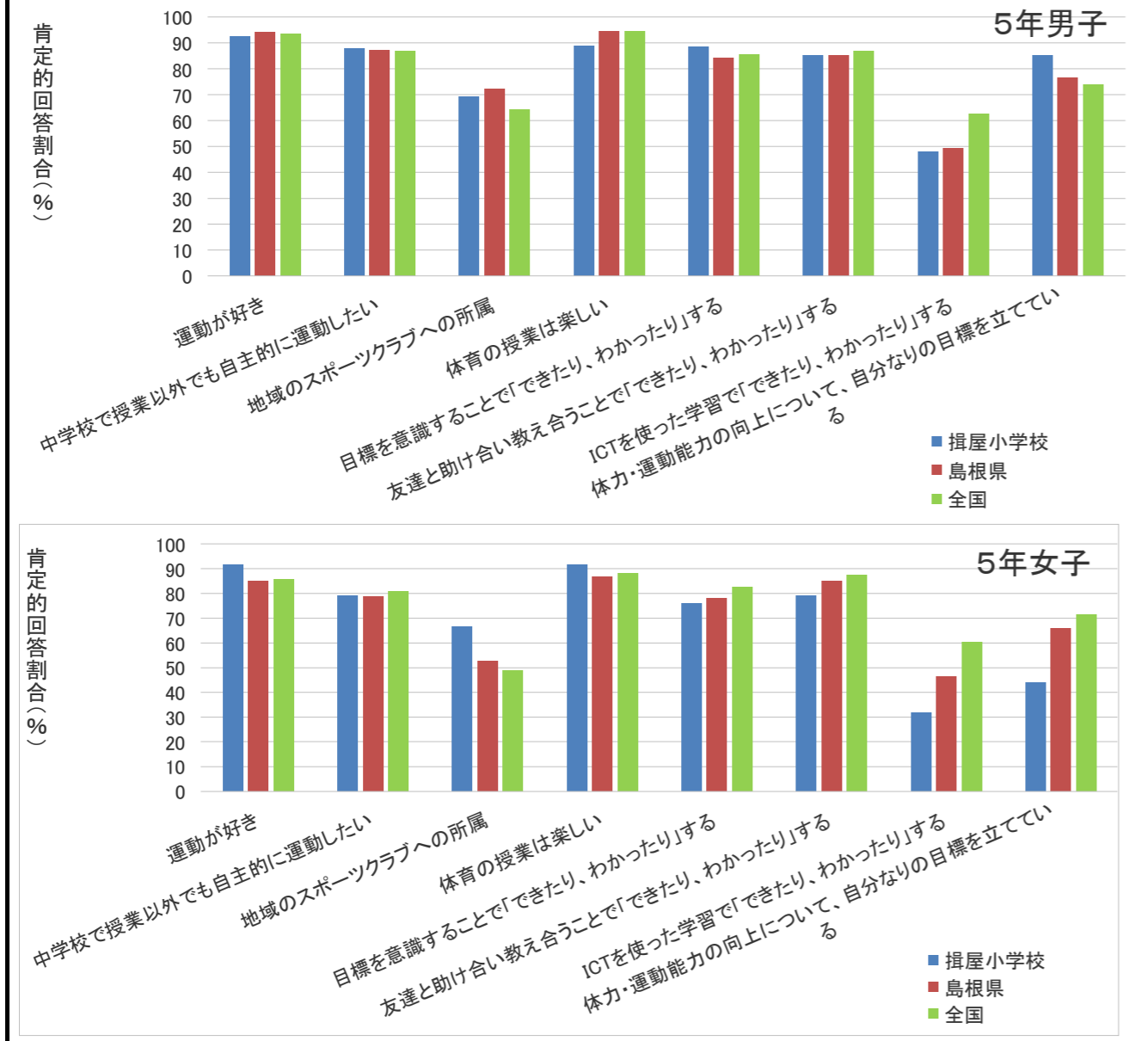


(1) 令和7年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



(2) 調査結果の分析

① 体力・運動能力面 全国(偏差値)との比較

	握力 (筋力)	上体起こし (筋持久力)	長座体前屈 (柔軟性)	反復横とび (敏捷性)	シャトルラン (全身持久力)	50m走 (スピード)	立ち幅とび (筋パワー)	ボール投 (巧緻性)
男子	-6.1	3.2	1.4	6.3	4.1	3.1	-0.2	2.7
女子	-4.6	2.9	1.4	4.3	-2.9	0.1	0.5	0.9

【-5p以上】 【-5~-2p】 【-2~0p】 【0~2p】 【2~5p】 【5p以上】
弱み ← → 強み

② 意識面 全国(割合%)との比較

	運動が好き	中学校で授業以外でも自主的に運動したい	地域のスポーツクラブへの所属	体育の授業は楽しい	目標を意識することで「できたり、わかったり」する	友達と助け合い教え合うことで「できたり、わかったり」する	ICTを使った学習で「できたり、わかったり」する	体力・運動能力の向上について、自分なりの目標を立てている
男子	-0.8	1.1	4.9	-5.7	2.9	-1.6	-14.6	11.3
女子	5.9	-1.4	17.9	3.6	-6.6	-8.3	-28.2	-27.3

【-7%以上】 【-7~-3%】 【-3~0%】 【0~3%】 【3~7%】 【7%以上】
弱み ← → 強み

(3) 令和8年度の方針【学校全体での取組】

今年度の実践を通じ、体育の授業でタブレットを活用することは重要であり、児童の技の習得や意欲向上において非常に効果的であることが分かった。特にお手本動画を視聴することで、動きのコツを視覚的に理解できる点は大きな成果であった。しかし、活用実態を振り返ると、学年や学級によってタブレットの活用頻度に差があることが課題であった。どの学級の児童も同じようにタブレットを活用し、運動の楽しさを味わえるようにしていく必要がある。そこで来年度は、「タブレット端末の効果的な活用方法の定着」を目指す。体育主任を中心として、具体的な活用事例を紹介する職員研修の実施や、授業での効果的な使い方の周知を行い、全校で足並みを揃えて取り組めるような体制を整えていきたい。また、体力テストの結果からも、依然として握力の数値が低いことが分かっている。そのため、来年度も重点事項として「握力(筋力)の向上」を掲げ、鉄棒学習の充実を図っていきたい。今年度と同様に、以下の二点に力を入れて取り組む。

(1) 指導方法の工夫 帯活動として、松江の「鉄棒の歌」を取り入れる。リズムに合わせて楽しく活動することで、基礎的な筋力や感覚を養っていく。(2) 授業外の楽しく運動をする場の設定 全校で鉄棒の学習を行う時期を揃えることで、クラブ活動や休み時間にも子どもたちが進んで鉄棒に取り組むような環境を作っていく。